

クロガネモチとその流蜜について

三 木 順 一

一般の植物図鑑や有用植物の解説に蜜腺のことは記載があつても、これと蜜蜂との関係やその蜜の性状、分泌の状況などのべてあるものを殆どみかけない。筆者がみたあるドイツの薬用植物図鑑には蜜の分泌のことなどが書いてあつたが、さすがは養蜂の盛んな国は違つと感心したことがある。我が国で今まで或る蜜源植物から多量に得られた蜜がどんなものであるか、よく養蜂家に知られているものが筆者の調査や経験では約30種ある。又数種のもはいろいろ異議があつて多数の認める所でない。何から得られたものか全く判らないものも相当ある。

判つているものうち、一般市場に出ているものはレンゲ、ナタネ、シナノキ、トチノキ、ニセアカシア、クローバー、ハギなどの蜜で、其の他は養蜂家自身は知つていても色や味が悪いので市場に出ない。その変つたものには渋い黒味がかつたクリの蜜、臭い褐色のソバの蜜、芳香はあるが苦いウメの蜜、人間には有毒であるホツツジの蜜、辛くないトウガラシの蜜などいろいろのものがあつて面白い。我々熱心に調査しているものは或る程度その香と色と味とで原植物が判別出来る。こう言うことは失礼ながら植物の専門家でも御承知ない方が多いのではないかと思う。

筆者は道楽で10数年こんな方面のことをやり、外国の文献もみることが出来、養蜂植物に興味をもつ国内の友と資料の交換をしている。ここにのべるクロガネモチも筆者が始めてその蜜を採取し発表したものの1つで、郷土に多いものなので少し詳しくのべてみたい。

この木は筆者の狭い知識では関西に多いように思う。一般の人々はモチノキと混同される事が多いが、後者よりも大木であり、繁みも花も実もはるかに多い。筆者の町では古い家やお宮の庭に一抱え以上もある大木が10数本ある。雌雄異株で雌樹は11月になると小さな赤い実がぎつしり黒緑色の葉の間にみえ、春までつづいている。幹の肌の色も白つぱく一寸サザンカの幹に似ているので遠くからもよく判る。開花期は5月末から6月10日頃までの大体12日間、いい所10日間である。同期間咲く花にはイヌツゲ、イボタ、ソヨゴ、ウツギなどがある。一般に5月、6月に咲く樹木の開花期間は短いものが多い。咲き始めると1日か2日で満開となり、散る時も同じくさつと終つてしまふ。開花期間2週間を越すものは殆どない。短いもの

にはカキ、ニセアカシアの5—7日間と言うものがある。こんな所は養蜂家の1つの悩みであるが、先進国アメリカではペレット父子2代にわたり、この方面に研究をつづけ、例えば四季咲ニセアカシア (*Robina pseudacasia semperflorens*) を育成している。この蜜源植物を品種改良して、少しでも花期長く、蜜分泌の多い種類を作り出すよう筆者は数年前より提唱しているがまだ当局にはとりあげられない。

クロガネモチの花は白味がかつた紫色で小さいがなかなか豊富である。然し葉が多いので目立たない。蜜蜂の訪れ方はなかなか賑やかである。試みに6月上旬の午前中この木の下に立つてみて下さい。そのはげしい音羽に驚かれる違いない。その音も午後2時を過ぎるとずつと衰える。蜂数の多い頂点は午前8時半から9時半までの間にある。これも面白い点で、いろいろの蜜源植物の一定数(又は一定面積)に訪れる蜂の数を日頃から日没まで、例えば30分毎にグラフにしてみると、その形がそれぞれ独特の形であるのに驚かされる。その頂点が午前8時にあるもの、11時にあるもの、日没の1時間前にあるものなどなかなか興味がある。夏休みの生徒の研究課題として、アオギリ(大体7月下旬に約10日間咲く)の雌花の満開日と雄花の満開日に訪れる昆虫の数をこのグラフにして比較させてみて下さい。その特異性に驚かれるに違いない。こんな方面のこと、いろいろの植物については又別の機会にのべたい。

蜜蜂は同時に濃クリーム色の花粉を盛んに巢内に運び込む。個々の花粉粒はクリーム色であるが、搬入される花粉塊は濃い。花上で見られる花粉の色と搬入花粉の色とは少し異なる。これは養蜂家のよく知つている点で、著しいものでは、トチノキの花粉粒は黄色であるが搬入花粉は血赤色、ソラマメは白いが、搬入花粉は灰黒色で、なれないととても同一物とは思えない。(顕鏡比較すればわけないが)。

分離されたクロガネモチの蜜は特有の芳香があり水様透明、僅かにソーダガラス色を帯びる。この色調はハギの蜜に似ている。味もよく1級品に属する。筆者数年の経験では1抱え以上の木1本よりこの10日間に約1升の蜜がとれる。トチノギも同様で、この大木10本あればあたり年には1斗とれるというのは養蜂家の常識である。年切れの傾向はないが庭園内の木が夏期

強く剪定を受けるのが惜しい。この年切れというのは果樹に隔年結実があるように、花が咲いても蜜がとれない(養蜂家は流蜜しないという)ことをいう。我が国のクリ、ビワなどがこの例の著しいもので、隔年流蜜する。ドイツの有名なボダイジュ (*Tilia grandifolia* 及び *T. parvifolia*) は又有力な蜜源植物であるが、数年に1度しか流蜜しないと同地の養蜂家は嘆いている。

クロガネモチの属するモチノキ科にはよく流蜜する木が多い。ソヨゴ、モチノキ、ウメモドキ、キツコウツゲ、イヌツゲ、タラヨウ、ナナミノキなど養蜂家によく知られたものが多い。このうち、ソヨゴの蜜は以前からよく知られていたが、その他のものは不明であった。昭和26年筆者はこのうちのクロガネモチとイヌツゲとの蜜を発表した。アメリカでもモチノキ科は約10種の蜜源植物が知られて居り、何れも上蜜を産するという。

この木の天然記念物になつているものが2つある。1つは芦屋にあり根本周囲4.9m、地上1.5mの所の周囲3.5、樹高20mとある。も1つは松江城内大手前通にあり、根本周囲4.25mとある。(日本巨樹名木図説1930年)。筆者は残念ながらまだみる機会に恵まれない。神崎郡の最大のものは田原村辻川、松岡医院の庭に目通り周囲1.8mある雌樹であろう。この木は火にも強いとみえ、焦土となつた姫路市の戦災跡に平然と

立つていた。

ブラナナスやイチヨウに代つてトチノキ、シナノキ、クロガネモチなど蜜源植物を道路や公園に、お宮やお寺のマツやスギのあとへこんな木を、と我々養蜂植物研究家が常に唱えているが、これもまだ広く当局に受入れられない。この点ドイツは国が先に力を入れて、植えることに協力してくれなければ、せめて切り倒さずに保護して頂きたい。筆者の小さな例ではこの願いがきき届けられて喜んでいる。1つは神姫バス福崎停留所前のこの大木が切り倒される運命にあつた時、理由をのべたところ願ひによつて今保護されているし、も1つは姫路城内大手門と菱の門の中間のこの雌の木がやはり筆者の願ひにより悪童から守られて、説明もつけられている。

どうか養蜂家だけのためではなく、冬の小鳥のためにも、郷土に多いこの木を保護されたい。(27.12.6)

参考文献

- 日本の養蜂植物 (関口喜一) (1949)
 American Honey Plants (F.C. Pellett) (1947)
 Archiv Für Bienenkunde (1951)
 American Bee Journal (1951—1952)
 月刊ミツバチ (Japanese Bee Journal)
 その他
 (筆者、開業医、神崎郡福崎町)

(157頁より続く)

本県下での産地は局限されており、7月頃出現する。井口氏によると櫛田滝に至る途中の山道に居る由、筆者も本種を目的に7月の中旬と下旬との二回に互つて同地域を探したが失敗に終つた。氏は特に「7月」"櫛田滝云々"と時期と場所を限定して説明を加えられているので(コミスジならば春より秋まで各地に居り極めて普通である)現在のミスジチョウと素直にとつてよいと思うのだが、「栗」中に「コミスジ」の名が挙げられていないので、実物を確かめるまで保留しておきたい。それは現在のコミスジをミスジチョウと呼んだ例は稀でなく、名和氏も *Neptis aceris* に明らかにミスジチョウの和名を当てられている。そして現在のミスジチョウを「ハヤシミスジ」というのが普通であつたからである。

Ⅷ Satyridae ジャノメチョウ科

67. *Ypthima argus* BUTLER, 1878

ヒメウラナミジャノメ

68. *Y. motschulskyi* (BREMER et GREY, 1853)

ウラナミジャノメ

前種のように普通ではないが、6月頃山間の叢中で

採集出来る。

69. *Satyrus dryas bipunctatus* (MOTSCHULSKY, 1860)

ジャノメチョウ

70. *Lethe sicelis* (HEWITSON, 1862)

ヒカゲチョウ

71. *L. diana* (BUTLER, 1866)

クロヒカゲ

72. *Aranda epaminondas* (STAUDINGER, 1877)

キマダラモドキ

山地性の極めて珍しい種類で、長野滝下流の池畔に産する由、筆者は久崎の西の谷で1頭を採集したことがる。

73. *Neope goschkevitschii* (MENETRIES, 1855)

キマダラヒカゲ

74. *Mycalesis gotama* MOORE, 1857

ヒメジャノメ

75. *M. francisca perdiccas* HEWITSON, 1862

コジャノメ

76. *Coenonympha oedippus annulifer* BUTLER, 1877

ヒメヒカゲ

余り多くはないが6月中旬頃山地に出現する。